

国際企業相次ぐ労働問題

「あまりの暑さに失神する者もいた。まるで地獄のようだ」と聞いている。SACOMのプロジェクトオフィサーを務めるアレクサンドラ・チャン氏は15

日に都内で記者会見し、そう指摘した。高温になる機械のそばで、過酷な作業を強いられている従業員がいたという。ファストリの新田幸弘グループ執行役員は

「問題点を早急に是正するよう、下請けの会社に強く要請する」とのコメントを発表した。国際企業は、調達先で起きた社会問題も責任を負

うべきだ、という流れが強まっている。ファストリは2004年に調達先の労働実態について基準を設け、違法労働などをしないよう定期的に監視してきたが、今回の事態を防げなかった。

中国の労働問題に詳しい弁護士は「中国の労働環境は改善しつつあるが、下請けにとつて大量発注の契約は奪い合い。安く引き受けると、長時間労働や残業代未払いといった問題につながる」と指摘する。

中国の生産現場ではすでに、労働問題が相次いで表面化している。10年には、米アップルなどから生産を請け負う台湾・鴻海精密工業傘下のフォックスコンの深圳市にある工場で10人以上が相次いで飛び降り自殺する事態が起きた。同社は12年、多くの法令違反があることを米国の公正労働協会に指摘された。昨年も、米マイクロソフトやヒューレット・パッドや伊グッチといった有名企業の生産を請け負う工場で、過度な残業などの問題があったと相次いで報じられた。

(平井恵美、北京＝斎藤徳彦)